

障がい学生支援

<事業概要>

大学コンソーシアム京都では、2001年度から、障がいのある学生支援の在り方について検討を始め、2004年度から「ノートテイク養成講座」を、2016年度からは「パソコン（PC）テイク養成講座」を開講しています。

また、加盟校の障がい学生支援窓口を中心としたネットワークとして「障がいのある学生支援に関する担当者会議」を2002年度から組織し、意見交換や勉強会等の場としてきました。担当者会議は2011年度まで開催し、今後の検討期間を経て、2015年度からは「関西障がい学生支援担当者懇談会」（KSSK）を主催しています。

<主な活動項目>

- ◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）
- ◆ ノートテイク・パソコン（PC）テイク養成講座
- ◆ 障がい学生対応における施設対応
- ◆ 大学障がい学生支援懇談会

※DI (Diffusion Index) 値とは

「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答が良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

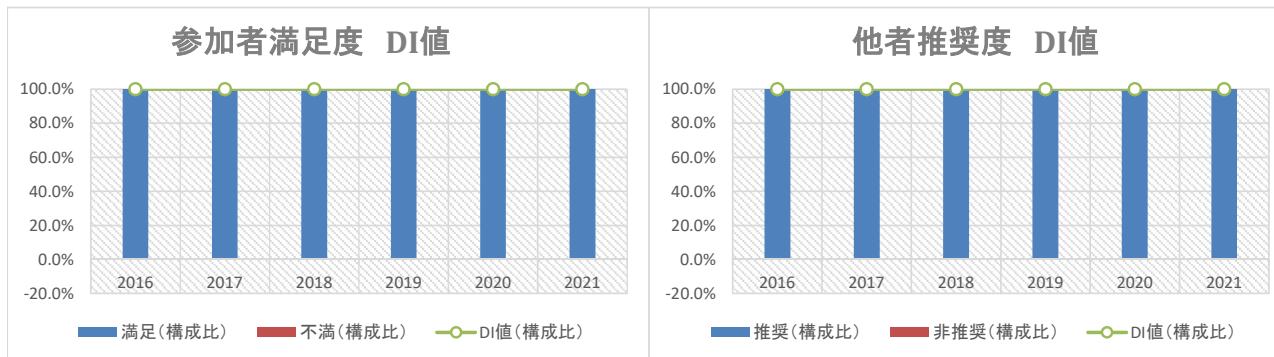
<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆ 関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

<事業概要>

関西における障がい学生支援担当者のネットワークづくりとして、「関西障がい学生支援担当者懇談会」（略称KSSK）を開催しています。KSSKはこれまで、教職員有志による世話人により運営されてきましたが、大学コンソーシアム京都が主催及び事務局を担うことで組織的な運営体制を実現しています。

KSSKの基本理念としては「実務者目線」でざくばらんに話し合うことを目的としており、各大学の事例報告や少人数による分科会など、障がい学生に関する支援の情報交換や現場の悩みの共有など、関西地域におけるネットワークとして機能しています。



参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	94	94	75	76	64	76
不満(名)	0	0	0	0	0	0
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107	91	100	102

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	98	89	78	76	64	76
非推奨(名)	0	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	131	126	107	91	100	102

＜参加者の声＞

- 大学の規模や職種を超えて、率直に実状を語り合える場というのは大変貴重だと思います。
- 学生対応をどうすればいいのか悩むことが多く、同様のまたそれ以外の対応事例をたくさん伺うことができ勉強になりました。
- 所属の大学内では、1人で業務に当たっており、不安に感じることも多いが、他大学の取組み等を知れ、こうした機会はありがたい。
- WEBだと分科会の時間が短く感じます。対面だとちょうど良いと感じるのですが。
- 時間管理をして頂けるとよいかと思います。またZOOMでの懇談は十分に意見の共有が難しいという欠点もありますので、Jamboardやブレイクアウトルームなどのツールを駆使した運営もご検討頂けるとありがたいです。

＜参加者の声を受けて改善を図った点＞

- 話題提供では、障がい学生支援体制が整備段階である大学が多いことから、障害者差別解消法の改正をはじめとした障害学生支援の周縁的な動向を整理する機会となるような内容で実施した。
- オンラインでは担当者間の懇談が難しく、参加者の許可を得た上で、連絡先を記載した参加者名簿を配布するとともに、気軽に連絡を取り合うことを促した。

【総 括】

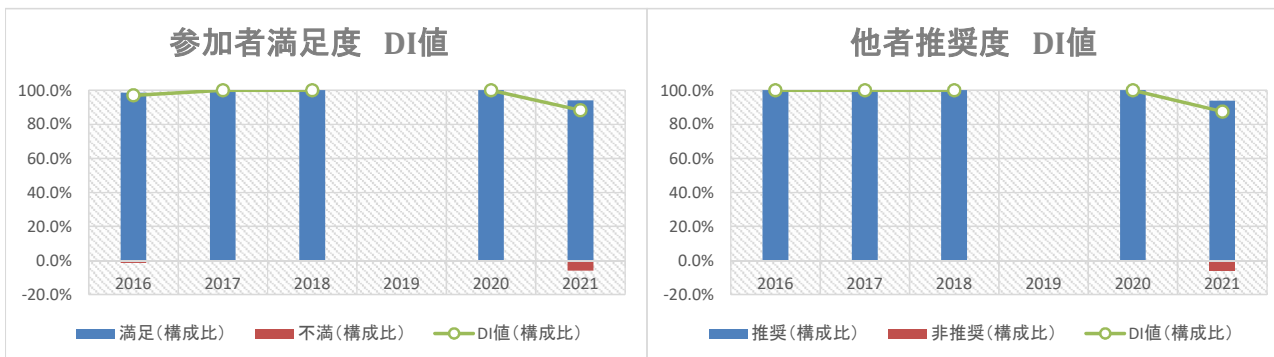
2021年度は前年度より参加者からの対面での開催を希望する声をもとに対面での開催を目指していたが、コロナ禍の影響によりオンライン開催とした。ブレ企画として、支援部署の状況紹介と参加者間のざっくばらんな雰囲気に対談を目的としたオンラインでのリレー中継では気軽な発言もあり、高く評価する声が見られた。

参加者は実務経験豊富な方から学生支援部門へ配属間もない方まで様々であるが、障がいの学生支援の支援方法や整備の見直しについて参考になったなどの声が多く見られた。

◆ノートテイク・パソコン（PC）テイク養成講座

<事業概要>

近年、大学において、聴覚障がいのある学生が多く学んでいる中、講義の「情報保障」が求められています。その対応として代表的な方法が、講義の情報を聴覚障がいのある学生に伝える「ノートテイク」「パソコン（PC）テイク」です。ノートテイク・PCテイクの養成は各大学にて普及してきましたが、その指導方法やノウハウの蓄積などが不十分の大学も存在します。また、テイクの経験不足や人材確保など様々な悩みを有する大学も多く見受けられます。本講座は、テイクとその利用者の体験談やノートテイク・PCテイクの基本理解の講義、実践を通じて、少しでも多くのテイクを養成し、ノートテイク・PCテイクに関するコミュニティを構築することを目的に開講しています。



※2019年度は中止

<参加者の声>

- 聴覚障害の学生は在籍しないが、いつでも対応できるように最新の支援情報には常に触れていきたいと考えております。
- ノートテイクの必要性や実際の実用面までよくわかったから。
- 本学で行っていない形でのノートテイクツールを学べたため。
- 時間的に難しいかもしれませんが、学生との情報共有の場もあればなお良かった。
- ツールの説明を短く、実践練習を行うことがノートテイクの理解が早まると思います。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 専門の講師の方に事後アンケートの結果などを共有し、次年度以降の参考になるようにした。
- CaptiOnlineを使った遠隔PCテイクの実習を行った。

【総括】

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、多くの大学がオンライン講義での対応を求められている状況を鑑み、遠隔での文字情報保証のウェブアプリケーションの一つであるCaptiOnline（遠隔文字情報保証システム）を用いた手法を学ぶことができる講座を実施した。夏季休暇中ということもあり学生の参加が少なかったが、教職員の参加が多く、遠隔PCテイクへの関心の高さが伺えた。少人数のワークで担当講師が丁寧な指導を行ったことから参加者からは高い満足度が得られた。また、教職員のコメントからは、CaptiOnlineを導入していない、使用したことがないなどの声も寄せられ、自校での学生支援を検討する機会にもなったと考える。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	67	44	15	中止	16	16
不満(名)	1	0	0		0	1
満足(構成比)	98.5%	100.0%	100.0%		100.0%	94.1%
不満(構成比)	-1.5%	0.0%	0.0%		0.0%	-5.9%
DI値(構成比)	97.1%	100.0%	100.0%		100.0%	88.2%
参加者数(名)	77	58	17		22	22

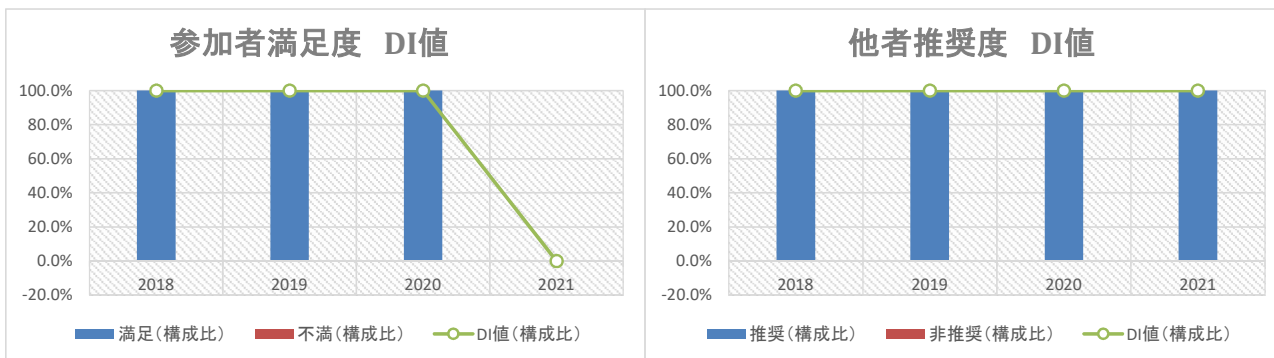
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	55	43	14	中止	16	15
非推奨(名)	0	0	0		0	1
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	93.8%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	-6.3%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	87.5%
参加者数(名)	77	58	17		22	22

◆大学障がい学生支援懇談会

<事業概要>

2016年4月に施行された「障害者差別解消法」を踏まえ、加盟大学からもニーズが高い障がい学生支援に関する事業に取り組んでおり、障がい学生支援に関して、高等学校や特別支援学校と大学とがつながりを持つ機会が少ないという現状を鑑みて、高等学校等の教員と大学において障がい学生支援に携わる教職員の情報交換、交流を目的として懇談会を開催しています。



※2021年度は参加者満足度DI値に係る項目の回答を求めなかった。

<参加者の声>

○今回は合理的配慮の話題が中心であったが、教育機関である高大がつながる意味は、教職員が学生の育ちをつなげて捉えられるようになり、それぞれの教育的取り組みについて学びあうことだと思うので、合理的配慮から一歩踏み込んで学びあう場が必要ではないかと思った。

○支援コーディネーターが「教育」について学ぶことが、今後重要だと思う（私も含めて）。また、関係者同士の連携から、大学生と高校生の連携やつながりについても推進されていくことが重要だし、そんな取り組みができれば面白いのではないかと思う。

○話題提供のところで、高校からの現状と大学の現状とであれば、より双方の理解を深められたのではないかと思います。ありがとうございました。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○高校の支援担当者まで情報が届いていないということもあり、京都府教育庁および京都市教育委員会等の担当者からメールで各高校へ配信していただいた。

○今回、オンラインでの開催ということもあり、高等学校等のインターネット環境の事情もあり、感染予防対策を行った上で、キャンパスプラザ京都での参加も受け付けた。

【総括】

2020年度はコロナ禍の影響により基本的にオンライン開催としたが、高等学校等のインターネット環境の事情もあり、一部実地（キャンパスプラザ京都）での参加となった。参加者からは高い評価をいただき、大学と高等学校等の双方にとって、有意義な情報交換ができたものとする。しかしながら、ハイフレックス型となった分科会のグループ討議では実地参加者とオンライン参加者の間に温度差も見られたため運営方法を工夫する必要がある。また、本会では弊財団加盟校教職員ではない高等学校等の先生を主対象としていることから、広報についても改善を図る必要がある。

参加者満足度

	2018	2019	2020	2021
満足(名)	36	18	13	-
不満(名)	0	0	0	-
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	
参加者数(名)	44	28	31	26

他者推奨度

	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	35	19	13	9
非推奨(名)	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	44	28	31	26